

①上位の政策名	政策目標 6 科学技術と社会の新しい関係の構築	
②施策名	施策目標 6-3 科学技術に関する国民意識の醸成	
③主管課 及び関係課 (課長名)	(主管課) 科学技術・学術政策局基盤政策課 (課長：田中正朗) (関係課) 生涯学習政策局社会教育課 (課長：三浦春政) 初等中等教育局教育課程課 (課長：常盤豊)	
④基本目標 及び達成目標 ア＝ 想定した以上に達成 イ＝ 想定どおり達成 ウ＝ 一定の成果が上が っているが、一部 については想定ど おり達成できなか った エ＝ 想定どおりには達 成できなかった ア＝ 想定した以上に順 調に進捗 イ＝ 概ね順調に進捗 ウ＝ 進捗にやや遅れが 見られる エ＝ 想定したどおりに は進捗していない	<p>基本目標 6-3 (基準年度：16年度 達成年度：21年度) 国民の科学技術に対する関心と基礎的素養を高める。また、低い年 齢段階から能力にふさわしい教育を行うことを通じ、科学技術をリー ドしうる人材層を厚く育む。</p> <p>【達成度合い(進捗状況)の判断基準】 各達成目標を下記の※のとおり数値化し、達成度合い(進捗状況) を判断。 ア＝平均 2.5 以上。 イ＝平均 2.0 以上。 ウ＝平均 1.0 以上。 エ＝平均 1.0 未満。</p> <p>※・「想定した以上に順調に進捗」は 3 点。 ・「概ね順調に進捗」は 2 点。 ・「進捗にやや遅れが見られる」は 1 点。 ・「想定どおりには進捗していない」は 0 点。</p>	達成度合い又は 進捗状況 概ね順調に進捗
	<p>達成目標 6-3-1 (基準年度：16年度 達成年度：21年度) 科学技術理解増進活動に携わる機関・者が、わかりやすく親しみや すい形で科学技術を伝える活動を進めることにより、国民の科学技術 に対する関心と理解を深める。</p> <p>【達成度合い(進捗状況)の判断基準】 ア＝我が国で唯一の科学技術に関する番組のみを放映するサイエンス チャンネル(科学技術番組)のモニター調査において、「知識・教 養」を高める上での有用性に関する評価と「実用性」、「平明性」 に関する評価の平均値が 5 であり、かつ代表的な理解増進の場 である日本科学未来館及び国立科学博物館の両者の入館者数が昨年 から増加するなど、国民の科学技術に対する理解と関心が非常に 深まっている場合。 イ＝サイエンスチャンネル(科学技術番組)のモニター調査において、 「知識・教養」を高める上での有用性に関する評価と「実用性」、 「平明性」に関する評価の平均値が 3 以上であり、かつ日本科学 未来館又は国立科学博物館の入館者数が昨年から増加するなど、 国民の科学技術に対する理解と関心が深まっている場合。 ウ＝サイエンスチャンネル(科学技術番組)のモニター調査において、 「知識・教養」を高める上での有用性に関する評価と「実用性」、 「平明性」に関する評価の平均値が 2 以上 3 未満であり、かつ日 本科学未来館又は国立科学博物館の入館者数が昨年から増加する など、国民の科学技術に対する理解と関心が若干深まっている場 合。 エ＝サイエンスチャンネル(科学技術番組)のモニター調査において、 「知識・教養」を高める上での有用性に関する評価と「実用性」、 「平明性」に関する評価の平均値が、5 段階中 2 未満である、又 は、日本科学未来館及び国立科学博物館の両者の入館者数が昨年 から増加しないなど、国民の科学技術に対する理解と関心が深ま っていない場合。</p>	概ね順調に進捗
	<p>達成目標 6-3-2 (再掲) (基準年度：16年度 達成年度：21年度) 学校と科学館、大学等との連携による教育活動や教員研修の推進な どにより理数教育の充実を図り、子どもの科学技術に対する興味関心 を高める。</p> <p>【達成度合い(進捗状況)の判断基準】 ア＝サイエンス・パートナーシップ・プログラムに関するアンケート 調査で、科学技術や理科・数学に対する興味関心が増加した又は どちらかといえば増加したと答えた児童・生徒が 100 %である場 合。 イ＝サイエンス・パートナーシップ・プログラムに関するアンケート 調査で、科学技術や理科・数学に対する興味関心が増加した又は どちらかといえば増加したと答えた児童・生徒が 50 %以上 100 %</p>	概ね順調に進捗

	<p>未満である場合。 ウ＝サイエンス・パートナーシップ・プログラムに関するアンケート</p> <p>調査で、科学技術や理科・数学に対する興味関心が増加した又はどちらかといえば増加したと答えた児童・生徒が 10 %以上 50 %未満である場合。 エ＝サイエンス・パートナーシップ・プログラムに関するアンケートで理数教育又は科学技術に対する興味関心が高まったと答えた児童・生徒が 10 %未満である場合。</p> <hr/> <p>達成目標 6-3-3 (再掲) (基準年度：16年度 達成年度：21年度) 高校等と大学等とが連携して先進的な理数教育や高大接続の取組を進めることにより、生徒の科学技術に関する能力を高める。(再掲)</p> <p>【達成度合い(進捗状況)の判断基準】</p> <p><指標 1：科学技術分野のコンテストでの応募件数> ア＝科学技術分野のコンテストにおける応募件数が SSH 指定前に比べ 20 %以上増加した場合。 イ＝科学技術分野のコンテストにおける応募件数が SSH 指定前に比べ 1～19 %増加した場合。 ウ＝科学技術分野のコンテストにおける応募件数が SSH 指定前に比べ増加がない場合。</p> <p><指標 2：科学技術分野のコンテストでの表彰件数> ア＝科学技術分野のコンテストにおける表彰件数が SSH 指定前に比べ 5 %以上増加した場合。 イ＝科学技術分野のコンテストにおける応募件数が SSH 指定前に比べ 0～4 %増加した場合。 ウ＝科学技術分野のコンテストにおける応募件数が SSH 指定前に比べ減少した場合。</p> <p><指標 3：SSH の活動による生徒の能力向上> ア＝「SSH によってどの能力が身についたと思いますか」という問いに対し複数の選択肢(好奇心、文章作成力、探求心等)を示した調査において、各選択肢を選択した割合の平均値が 20 %以上である場合。 イ＝「SSH によってどの能力が身についたと思いますか」という問いに対し複数の選択肢(好奇心、文章作成力、探求心等)を示した調査において、各選択肢を選択した割合の平均値が 1～19 %の範囲である場合。 ウ＝「SSH によってどの能力が身についたと思いますか」という問いに対し複数の選択肢(好奇心、文章作成力、探求心等)を示した調査において、各選択肢を選択した割合の平均値が 0 %の場合。</p> <p><判断> ア＝指標 1、指標 2、指標 3 のいずれもアの場合。 イ＝指標 1、指標 2、指標 3 のいずれかが、イを含み、ウを含まない場合。 ウ＝指標 1、指標 2、指標 3 のいずれかが、ウを 1 つ又は 2 つ含む場合。 エ＝指標 1、指標 2、指標 3 のいずれもウの場合。</p>	概ね順調に進捗
<p>⑤ 現状の分析と今後の課題</p>	<p>達成目標 6-3-1 【平成 17 年度の達成度合い】 日本科学未来館及び国立科学博物館の両者の入館者数が増加している。また、サイエンスチャンネル(科学技術番組)のモニター調査において、「知識・教養」を高める上での有用性に関する評価は 4.0、「実用性」に関する評価は 3.2、「平明性」に関する評価は 3.7 で、平均値は 5 段階中 3.7 であり、尺度基準の 3 より高い評価が得られた。これらを総合的に判断すると、国民の科学技術に対する関心は高まっており、加えて、サイエンスチャンネルについては知識・教養としての有用性や実用性が認められ、また、平明性、すなわちわかりやすいとの回答もあったことから、国民の科学技術に対する理解も進んでいると考えられる。したがって、「国民の科学技術に対する関心と理解を深める」という達成目標は、概ね順調に進捗していると判断。</p> <hr/> <p>達成目標 6-3-2 【平成 17 年度の達成度合い】 サイエンス・パートナーシップ・プログラムに関するアンケート調査で、科学技術や理科・数学に対する興味関心が増加した又はどちらかといえば増加したと答えた児童・生徒は 71.6 %であった。したがって、「子どもの科学技術に対する興味関心を高める」という達成目標は、概ね順調に進捗していると判断。</p> <hr/> <p>達成目標 6-3-3 【平成 17 年度の達成度合い】 科学技術分野のコンテストにおける応募件数が SSH 指定前に比べ 20 %以上増加したこと及び科学技術分野のコンテストにおける表彰件数が SSH 指定前に比べ 5 %以上増加したこと、SSH によってどの能力や姿勢が身についたと思いますか、との問いに対する各選択項目の選択率の平均値が、1～19 %の範囲であることを勧告し、「生徒の科学技術に関する能力を高め</p>	

	る。」という達成目標は、概ね順調に進捗していると判断。
施策目標（基本目標）の達成度合い又は進捗状況	【平成 17 年度の達成度合い】 達成目標の全てが概ね順調に進捗していることから、国民の科学技術に対する関心と基礎的素養は高まり、科学技術をリードしうる人材層を厚く育むことにも順調に貢献していると判断。したがって、国民の科学技術に対する理解は深まっており、これを通じて、信頼感も増していると考えられ、施策目標は順調に概ね順調に進捗していると判断できる。
今後の課題（達成目標等の追加・修正及びその理由）	達成目標 6-3-1 国民の科学技術に対する関心と基礎的素養が高まっているか否かをよりの確に評価できるようにするため、指標について、他の観点のものも利用していくことを検討し、開発・収集していく必要がある。
評価結果の 18 年度以降の政策への反映方針	達成目標 6-3-1 国民の科学技術に対する関心と基礎的素養を高める上で、サイエンスチャンネル（科学技術番組）の製作と配信が効果を発揮していることが確認できたため、引き続き同取組を進めるとともに、科学技術理解増進活動を行う機関・人々への働きかけを行い、様々な方面から取組を進めていく。また、これまでの施策の効果を維持しつつ、更に一層の達成水準の向上を図るため、身近な場で科学技術に触れる機会を充実させることを目的とし、平成 19 年度より「地域の科学舎推進事業」を実施する。 達成目標 6-3-2 子どもの科学技術に対する興味関心を高める上で、サイエンス・パートナーシップ・プログラムが効果を発揮していることが確認できたため、18 年度以降、第一線の研究者・技術者を講師とする講座型の学習活動、最先端の研究現場での合宿型の学習活動、科学技術、理科・数学（算数）に関する教員研修の実施等を通じて同取組の積極的な普及を図るとともに、科学技術理解増進活動を行う機関・人々への働きかけを行い、様々な方面から取組を進めていく。また、これまでの施策の効果を維持しつつ、更に一層の達成水準の向上を図るため、研究者・技術者、退職教員、大学院生等を活用し、観察・実験等の体験活動を活性化し支える人材を小学校に配置する「サイエンス・コラボ・ティーチャー（SCOT）事業」、大学・研究機関等における観察・実験活動等に重点をおいた中学校理科教員等対象研修活動を支援する「ティーチャーズ・サイエンスキャンプ」等を実施する。 達成目標 6-3-3 生徒の科学技術に関する能力を高める上で、スーパーサイエンスハイスクールが効果を発揮していることが確認できたため、引き続き同取組を進めるとともに、科学技術理解増進活動を行う機関・人々への働きかけを行い、様々な方面から取組を進めていく。また、これまでの施策の効果を維持しつつ、更に一層の達成水準の向上を図るため、「国際科学技術コンテスト支援」を充実させるとともに、平成 19 年度から新たに大学学部段階において理数に興味・関心の高い学生の科学技術に関する能力の向上を図るための「理数学生応援プロジェクト」を実施する。

⑥指標	指標名	13	14	15	16	17
	サイエンスチャンネルに関するモニター調査における「知識・教養」と「実用性」、「平明性」に関する 5 段階評価の平均値 (達成目標 6-3-1 関係)	-	-	-	3.8	3.7
	日本科学未来館の入館者数（人）（平成 13 年 7 月開館）（達成目標 6-3-1 関係）	429,361	579,198	617,090	628,184	712,426
	国立科学博物館の入館者数（人） (達成目標 6-3-1 関係)	899,278		1,088,652	1,196,364	1,618,886
	サイエンス・パートナーシップ・プログラムに関するアンケート調査で、科学技術や理科・数学に対する興味関心が増加した又はどちらかといえば増加したと答えた児童・生徒の割合 (達成目標 6-3-2 関係)	-	-	-	61.9 %	71.6 %
	科学技術分野のコンテストにおける応募件数の SSH 指定前と比べた増加率 (達成目標 6-3-3 関係)					360 %
	科学技術分野のコンテストにおける表彰件数の SSH 指定前と比べた増加率 (達成目標 6-3-3 関係)					530 %
	SSH によってどの能力や姿勢が身についたと思いますか、との問いに対する各選択項目の選択率の平均値 (達成目標 6-3-3 関係)					17.5 %
⑦評価に用	・「サイエンスチャンネル」に関するモニター調査については、独立行政法人科学技術振興機構資料					

<p>いたデータ・資料・外部評価等の状況</p>	<p>を利用。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本科学未来館の入館者数」については、日本科学未来館調べを利用。 ・「国立科学博物館の入館者数」については、国立科学博物館調べを利用。 ・「サイエンス・パートナーシップ・プログラム」に関するアンケート調査については、(株)三菱総合研究所「SPP 連携プログラム事業評価報告書」(文部科学省委託調査研究)を利用。 ・科学技術分野のコンテストへの応募件数(平成 15 年度指定校への活動実績アンケート調査結果) ・科学技術分野のコンテストにおける表彰件数(平成 15 年度指定校への活動実績アンケート調査結果) ・SSH の活動による生徒の能力向上(平成 15 年度指定校への意識調査アンケート調査結果(問 4)) 																			
<p>⑧ 主な政策手段 (過去に新規・拡充事業評価を実施し、平成 18 年度に達成年度が到来する事業については総括)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="276 342 496 439">政策手段の名称 (上位達成目標 [17 年度予算額])</th> <th data-bbox="504 342 831 439">政策手段の概要</th> <th data-bbox="839 342 1501 439">17 年度の実績 (得られた効果、効率性、有効性等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="276 439 496 707">放送技術活用型科学技術コンテンツの開発 (達成目標 6-3-1) [182 百万円]</td> <td data-bbox="504 439 831 707">教材となるコンテンツを開発し、CS 放送等の放送メディア(サイエンスチャンネル)を通じて、一般家庭に直接配信。</td> <td data-bbox="839 439 1501 707"> <p>[得られた効果] 一般国民が科学技術に触れる機会が充実され、科学技術に対する関心と理解の向上が図られた。</p> <p>[活動量] ・「サイエンスチャンネル」のインターネットアクセス件数が、157 万件に達した。 ・「サイエンスチャンネル」に関するモニター調査の評価(5 段階評価)が総合平均で 3 を上回った。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="276 707 496 887">日本科学未来館の整備・運営 (達成目標 6-3-1) [2978 百万円]</td> <td data-bbox="504 707 831 887">最先端の科学技術の総合的な情報を受発信する拠点として、国民に科学技術をわかりやすく伝え、研究現場と一般社会をつなぐ。</td> <td data-bbox="839 707 1501 887"> <p>[得られた効果] 入館者数が増加し、国民の科学技術に対する関心と理解の向上が図られた。</p> <p>[活動量] 入館者が 70 万人を上回った。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="276 887 496 1111">国立科学博物館の整備・運営 (達成目標 6-3-1) [4354 百万円]</td> <td data-bbox="504 887 831 1111">自然史や科学技術史を中心とした標本資料の収集・保管を行い、調査研究を進め、それらの成果を広く国民に提供することにより、自然科学及び社会教育の充実を図る。</td> <td data-bbox="839 887 1501 1111"> <p>[得られた効果] 入館者数が増加し、国民の科学技術等に対する関心と理解の向上が図られた。</p> <p>[活動量] 入館者数が昨年に引き続き 100 万人を上回った。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="276 1111 496 1641">大学、学協会、研究機関等と教育現場の連携の推進(サイエンス・パートナーシップ・プログラム) (達成目標 6-3-2) [1,270 百万円]</td> <td data-bbox="504 1111 831 1641">【達成年度到来事業】研究者を学校に招へいした実験等の講座に対する支援と調査研究等の実施。</td> <td data-bbox="839 1111 1501 1641"> <p>[得られた効果] 児童生徒の科学技術の学習に対する関心の向上が図られた。</p> <p>[活動量] 「サイエンス・パートナーシップ・プログラム」の公募により 690 件を採択した。</p> <p>【事業期間全体の総括】 平成 14 年度より 4 年間、本事業を実施したことにより、アンケート調査のとおり、18 年 3 月現在で「科学技術や理科・数学に対する興味関心が増加した又はどちらかといえば増加した」と答えた児童・生徒の割合が 71.6 % という結果が示された。このことから、本事業の研究者と触れ合うこと等により子どもたちの知的好奇心や探究心を高めるという目的は達成されたと判断し、事業達成年度より 1 年早く事業を終了した。18 年度より本事業の成果の普及拡大のために、独立行政法人科学技術振興機構に移管して実施している。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="276 1641 496 1877">スーパーサイエンスハイスクール(SSH) (達成目標 6-3-3) [1,348 百万円]</td> <td data-bbox="504 1641 831 1877">「将来の国際的な科学技術系人材の育成」を目的として、科学技術・理科・数学教育を重点的に実施する高等学校等を SSH として指定し、理科・数学に重点を置くカリキュラム開発等を実施。</td> <td data-bbox="839 1641 1501 1877"> <p>[得られた効果] 特色ある理科・数学教育が展開され、生徒の科学技術に関する能力が向上した。</p> <p>[活動量] 平成 17 年度は「スーパーサイエンスハイスクール」に新たに 22 校指定した。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	政策手段の名称 (上位達成目標 [17 年度予算額])	政策手段の概要	17 年度の実績 (得られた効果、効率性、有効性等)	放送技術活用型科学技術コンテンツの開発 (達成目標 6-3-1) [182 百万円]	教材となるコンテンツを開発し、CS 放送等の放送メディア(サイエンスチャンネル)を通じて、一般家庭に直接配信。	<p>[得られた効果] 一般国民が科学技術に触れる機会が充実され、科学技術に対する関心と理解の向上が図られた。</p> <p>[活動量] ・「サイエンスチャンネル」のインターネットアクセス件数が、157 万件に達した。 ・「サイエンスチャンネル」に関するモニター調査の評価(5 段階評価)が総合平均で 3 を上回った。</p>	日本科学未来館の整備・運営 (達成目標 6-3-1) [2978 百万円]	最先端の科学技術の総合的な情報を受発信する拠点として、国民に科学技術をわかりやすく伝え、研究現場と一般社会をつなぐ。	<p>[得られた効果] 入館者数が増加し、国民の科学技術に対する関心と理解の向上が図られた。</p> <p>[活動量] 入館者が 70 万人を上回った。</p>	国立科学博物館の整備・運営 (達成目標 6-3-1) [4354 百万円]	自然史や科学技術史を中心とした標本資料の収集・保管を行い、調査研究を進め、それらの成果を広く国民に提供することにより、自然科学及び社会教育の充実を図る。	<p>[得られた効果] 入館者数が増加し、国民の科学技術等に対する関心と理解の向上が図られた。</p> <p>[活動量] 入館者数が昨年に引き続き 100 万人を上回った。</p>	大学、学協会、研究機関等と教育現場の連携の推進(サイエンス・パートナーシップ・プログラム) (達成目標 6-3-2) [1,270 百万円]	【達成年度到来事業】研究者を学校に招へいした実験等の講座に対する支援と調査研究等の実施。	<p>[得られた効果] 児童生徒の科学技術の学習に対する関心の向上が図られた。</p> <p>[活動量] 「サイエンス・パートナーシップ・プログラム」の公募により 690 件を採択した。</p> <p>【事業期間全体の総括】 平成 14 年度より 4 年間、本事業を実施したことにより、アンケート調査のとおり、18 年 3 月現在で「科学技術や理科・数学に対する興味関心が増加した又はどちらかといえば増加した」と答えた児童・生徒の割合が 71.6 % という結果が示された。このことから、本事業の研究者と触れ合うこと等により子どもたちの知的好奇心や探究心を高めるという目的は達成されたと判断し、事業達成年度より 1 年早く事業を終了した。18 年度より本事業の成果の普及拡大のために、独立行政法人科学技術振興機構に移管して実施している。</p>	スーパーサイエンスハイスクール(SSH) (達成目標 6-3-3) [1,348 百万円]	「将来の国際的な科学技術系人材の育成」を目的として、科学技術・理科・数学教育を重点的に実施する高等学校等を SSH として指定し、理科・数学に重点を置くカリキュラム開発等を実施。	<p>[得られた効果] 特色ある理科・数学教育が展開され、生徒の科学技術に関する能力が向上した。</p> <p>[活動量] 平成 17 年度は「スーパーサイエンスハイスクール」に新たに 22 校指定した。</p>	<p>⑨ 備考</p>
政策手段の名称 (上位達成目標 [17 年度予算額])	政策手段の概要	17 年度の実績 (得られた効果、効率性、有効性等)																		
放送技術活用型科学技術コンテンツの開発 (達成目標 6-3-1) [182 百万円]	教材となるコンテンツを開発し、CS 放送等の放送メディア(サイエンスチャンネル)を通じて、一般家庭に直接配信。	<p>[得られた効果] 一般国民が科学技術に触れる機会が充実され、科学技術に対する関心と理解の向上が図られた。</p> <p>[活動量] ・「サイエンスチャンネル」のインターネットアクセス件数が、157 万件に達した。 ・「サイエンスチャンネル」に関するモニター調査の評価(5 段階評価)が総合平均で 3 を上回った。</p>																		
日本科学未来館の整備・運営 (達成目標 6-3-1) [2978 百万円]	最先端の科学技術の総合的な情報を受発信する拠点として、国民に科学技術をわかりやすく伝え、研究現場と一般社会をつなぐ。	<p>[得られた効果] 入館者数が増加し、国民の科学技術に対する関心と理解の向上が図られた。</p> <p>[活動量] 入館者が 70 万人を上回った。</p>																		
国立科学博物館の整備・運営 (達成目標 6-3-1) [4354 百万円]	自然史や科学技術史を中心とした標本資料の収集・保管を行い、調査研究を進め、それらの成果を広く国民に提供することにより、自然科学及び社会教育の充実を図る。	<p>[得られた効果] 入館者数が増加し、国民の科学技術等に対する関心と理解の向上が図られた。</p> <p>[活動量] 入館者数が昨年に引き続き 100 万人を上回った。</p>																		
大学、学協会、研究機関等と教育現場の連携の推進(サイエンス・パートナーシップ・プログラム) (達成目標 6-3-2) [1,270 百万円]	【達成年度到来事業】研究者を学校に招へいした実験等の講座に対する支援と調査研究等の実施。	<p>[得られた効果] 児童生徒の科学技術の学習に対する関心の向上が図られた。</p> <p>[活動量] 「サイエンス・パートナーシップ・プログラム」の公募により 690 件を採択した。</p> <p>【事業期間全体の総括】 平成 14 年度より 4 年間、本事業を実施したことにより、アンケート調査のとおり、18 年 3 月現在で「科学技術や理科・数学に対する興味関心が増加した又はどちらかといえば増加した」と答えた児童・生徒の割合が 71.6 % という結果が示された。このことから、本事業の研究者と触れ合うこと等により子どもたちの知的好奇心や探究心を高めるという目的は達成されたと判断し、事業達成年度より 1 年早く事業を終了した。18 年度より本事業の成果の普及拡大のために、独立行政法人科学技術振興機構に移管して実施している。</p>																		
スーパーサイエンスハイスクール(SSH) (達成目標 6-3-3) [1,348 百万円]	「将来の国際的な科学技術系人材の育成」を目的として、科学技術・理科・数学教育を重点的に実施する高等学校等を SSH として指定し、理科・数学に重点を置くカリキュラム開発等を実施。	<p>[得られた効果] 特色ある理科・数学教育が展開され、生徒の科学技術に関する能力が向上した。</p> <p>[活動量] 平成 17 年度は「スーパーサイエンスハイスクール」に新たに 22 校指定した。</p>																		
<p>⑩ 政策評価担当部局の所見</p>	<p>※国民の科学技術に関する関心と基礎的素養が高まったかの観点からの効果を把握するための指標を設定することを検討すべき。</p>																			

施策目標6-3(国民の科学技術に対する理解の増進及び信頼の獲得) 平成17年度実績評価の結果の概要

